

シャロンの花だより

信仰のきずなによって聖霊が働き、キリストに在って一つとなる

◆ 希望・平和・多様性 ◆

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、
聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう

ローマの信徒への手紙15章13節

巻頭言

多様性の恵み

日本福音ルーテル教会市ヶ谷教会 牧師

あさの なおき

浅野直樹



第26期の総主題が「信仰の絆によって聖霊が働き、キリストに在って一つとなる」、副主題が「希望・平和・多様性」でしたので、巻頭言を書くにあたりひとつこれに沿って考えてみようと思いました。

希望と平和、このふたつはとても馴染みがあり、聖書の教えとして古くから浸透している極めて大切な価値観であり、イエスの教えでもあります。副主題にはそこにもうひとつの価値観として多様性が加わっています。多様性は近頃耳にすること多く、今の時代が求めている価値観といえます。しかもこの副主題では、多様性が希望と平和と横並びになっているので、多様性がこれからの社会を生きていくうえでとても大切で、私たちが日頃から肝に銘じておきたい、というメッセージになっています。

「多様性」という用語が、イエスのみ言葉にそのまま出てくるわけではありません。（そうした堅苦しい言葉使いをイエスはしませんでした。）けれども宣教の働きのなかで、イエスはそれをくっきり色濃く打ち出しています。徴税人のように罪人呼ばわりされた人であっても、分け隔てなく接して彼らに神の国を示しました。善きサマリア人のたとえでは、ユダヤ人から嫌がられたサマリア人を善い人にしてお話をしました。そして山上の説教では、大胆にもこう言っています、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」「父は、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる。」（いづれもマタイ5章）これなどは多様性の極みと言えないでしょうか。

パウロの言葉にも多様性は表れています。「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」（ガラテヤ3:28）（そう言っているのですから、第一コリント書14章の女性に関する発言にはとても理解に苦しむのですが…）

世界の社会全体が大きく変容しつつある今、先を見通すのが難しい時代です。あちこちで紛争や衝突が絶えないのもそのせいかもしれません。なかなか希望が見えないし、平和の呼び声が虚しく響きそうです。けれどもそういう時だからこそ、希望を掲げる、平和を祈り呼び求めることを、私たちは続ける必要があります。それと同様に、多様性という価値観も、今後広く受け入れられていくまでには険しい道のりがあるでしょう。

「多様性」というと難しく考えてしまいますが、今から100年前、金子みすゞさんが素敵に日本語でこれを表現してくれました。「みんな違ってみんないい」。この言葉を自分自身に当てはめてみてください。自分も多様な一人として受け入れられている、そう聞こえてきませんか。多様性は、きっと神様からの賜物であり恵みなのです。



浅野直樹 氏 プロフィール

1955年生まれ 名古屋めぐみ教会出身 1990年に按手を受け、岡崎教会で8年、日吉教会で11年（途中一年間米国サウスカロライナで交換牧師）、2009年から市ヶ谷教会を歴任し現在に至る。来年3月に定年を迎える予定。

26期東教区女性会 第4回「秋の信徒の集い」報告

在り方検討委員会提案書に対する意見交換の豊かな時間に感謝！



2025年11月15日（土）、市ヶ谷教会・ルーテル市ヶ谷センターにて、第4回「秋の信徒の集い」（参加者53名）が行われた。開会礼拝は浅野直樹Sr.牧師が、ルカによる福音書8章1～3節から「感謝と喜び受け取ろう」と題して、心温まる奨励の話をしてくださった。

礼拝後、協力委員・団体のアピールが行われ、それぞれの活動予定・報告をお聞きした。その後、礼拝奏楽者の湯口依子さんがオルガン演奏（全4曲）をしてくださり、市ヶ谷教会チャペルに響く美しいオルガンの音色に浸る豊かな時間をいただいた。昼食は2階会議室で、市ヶ谷教会の方々が用意してくださったお味噌汁、手作りのお菓子などをいただき、歓談の時を持った。

午後の部は、最初に松本義宣教区長から「教会行政の現状を共有する」ためのお話をいただき、東教区の現状と、目指す教会の新しい在り方を、皆で共有するよい機会となった。次に坂本千歳牧師

から「女性会の今を見つめて」と題し、女性会連盟担当牧師になられてからの大切な気持ちを温かな目線でお話しいただいた。そして、改めて私から、在り方検討委員会で1年間話し合い、委員それぞれの意見の違いを乗り越え、まとまった4つの提案のこと、また東教区の教会の在り方の変化に伴い、そこから地区会の大切さを再認識して、今年の夏～秋にかけて各地区で集いを行なったことなどをお伝えした。5分間の休憩を挟み、各教会女性会で話し合われた提案への意見を、教会ごとに発表していただいた。

色々な意見に耳を傾け、より良い在り方を模索していこうとする共通の思いが満ちた豊かな時間となったことを感謝したい。そして1年間、熱意をもって女性会の「これから」を話し合ってた下だった在り方検討委員会委員5名（役員除く）の方々に心からの感謝を申し上げたい。

（東教区女性会会長 和田めぐみ）



■ 4つの提案と意見 （＊意見抜粋）

提案① 役員定数の見直し：各地区1名ずつに加え、いずれかの地区からさらに1名を加える、計5名の選出とする。（各地区1名+1名〔重複する地区〕）

＊概ね賛成多数。意見「地区ごとにこだわらない方がよいのでは？」、一方で「いない地区があると全体が見えなくなるのでは？」

提案② 会報発行数の見直し：年1回発行を原則として、2回目発行はその期の役員会に一任する。

＊概ね賛成多数。意見「簡単なニュースレター形式にしても年2回欲しい」「デジタル化に賛成」「デジタルが受け取れない人に対する考慮も必要」「受け取り方を選べるといい」

提案③ 春・秋 年2回の東教区女性（信徒）の集いの形を変える：今後は地区会での交わりを重視する観点から、年1回を東教区全体で、もう1回を地区単位での集いとする。

＊概ね賛成多数。意見「全体の会の内容を教会全体が参加しやすいものにして欲しい」「地区会も神様の元に集まる会として礼拝を重視する」「ハイブリッド形式で開催できないか」

提案④ 女性会連盟つながり方について：原則として、教会の女性会単位で加入する。ただし、教会女性会が休会となった場合には、個人が所属教会員として教区女性会（連盟女性会）に加入できるものとする。

＊概ね賛成だが、意見「ルール の 制定が必要では？」「休会する場合、手続きを明確にすることの必要性があるのでは？」

<その他の意見>

「協力委員として持ち帰った情報を共有し、ともに行動するための場として女性会が存続してほしい」「会費の見直し」「女性だけではなく、垣根を取り払ってはどうか？」「名称変更すれば、多くの人が入りやすくなるのでは？」等の意見がある一方、「女性会の在り方を基本に立ち返って見つめる必要がある」「宣教の器としての女性会とは何かを考えていくことも大切」等々の意見が出された。

● 在り方検討委員会から

在り方検討委員会 振り返りの声



石田とも子（都南教会） 22年に各教会女性会を対象に、女性会に対するアンケートの取りまとめが実施されました。（そのアンケートの思いや意見をそのままにしておくのはもったいない。この女性会という組織を時代や状況の変化に応じて、少しでも良い方向に向かう手立てを皆で考えてゆく機会となれば…）そんな思いで、在り方検討委員会に参加させていただきました。

委員会の話し合いを重ねる中で、「ルーテル女性会をより良いものにしてゆきたい」という皆の思い（意図・願望）と実際に具体的に变えてゆくこと（行動）のギャップ、その2つを繋げてゆく難しさ・大変さを感じながら、各委員の方々の前向きな姿勢、その熱意に励まされてきました。皆の知恵を合わせてゆく中で、具体的な方向性も少しずつ見えてきたように思います。これからも、ルーテル女性会全体で協力して組織の在り方を話し合っゆく、そんな場の必要性を思いました。

私は在り方検討委員会の委員の一員として分からないこと・戸惑うことも多く、自らの能力不足・知識不足・経験不足を痛感しています。そんな私を委員の皆さんは暖かく受け入れて、助け・補って下さりました。そして神様が支えて下さりました。感謝のみです。ありがとうございました。

江越 倫子（藤が丘教会） 東教区女性会25期役員会からこれからの女性会についてのアンケートをいただきました。その結果の詳しい説明を読みながら、各女性会の状況や意見がわかり、「ただ、読んでいだけでは、もったいないのでは？」と思ったその時に女性会総会での議案募集に飛びつき、アンケートを検討する会の立ち上げの提案をいたしました。その年の夏に初めて委員会で皆様と顔合わせをいたしました。25期、26期の役員の皆様を中心にした委員会は最初、どうなることやら？と思いつつでしたが、回を重ねていく度に色々な意見交換、本音で語り合い、段々とこれからの女性会の姿が浮かび上がり、予想される状況にいかに対処していくかという方向性も見えきました。自分の所属する女性会だけではなく、他の女性会を見渡すと高齢化に伴う会員数減少、休会女性会の増加、会費について等々と課題も多い事わかりました。今、私達が出来る事をできる範囲内で無理なく行い、時には変わる事もあり、長い歴史ある女性会の受け継いでいく事もあり～を改めて認識しております。実り多かった委員会ももうすぐ、解散。一抹の寂しさを感じています。

神庭 靖子（飯田教会） 7人という少人数で始まった在り方検討委員会でしたが、7人の一人一人が女性会についての真摯で熱い思いを持っているだけに、果たして具体案をまとめられるのか、と不安でした。しかし回を重ねるにつれ、お互いの意見を尊重し合いながら自由に安心して自分の意見を言え、分かち合えるようになっていきました。

女性会の在り方と課題は、四半世紀にわたり取り上げられ続けてきたテーマですが、課題は共有できるものの、解決への妙案はないままでした。今回の結果も、「スリム化」というマイナーチェンジでした。ではなぜ、1年間検討を重ねてもなおそれ以上にならなかったのか。それは、女性会が教会組織から独立した自由信徒運動体であり、その働きである「各教会が協力して福音の宣教と奉仕に努めること」が大切であり、それを担う女性会（名称はともあれ）はなくしてはならないのだという事を神様が示されたのだと思います。折しも教会では、深刻な牧師不足の課題を抱え、信徒は自立していくことを求められています。神様はこれらすべてをご自分のご計画として私たちに示しておられる。その思いに至った今、私は神様のお導きに素直に感謝できるようになりました。

中村 紋子（松本教会） 委員会にお声がけいただいた当初、「私なんて」と一度お断りしました。役員のなり手がない、会報作りは大変、そう思っても、どこか遠く「誰かが何とかしてくれる」と他人事だったのです。それが全て自分のことだと気づき、お仲間に入れていただこうと思いました。

このような事をよく発題していただいたと思います。思っただけでも一歩踏み出すのは難しいものです。私事で欠席も多かったですが、皆様と本音で話し合えた、有意義な一年でした。

甲信地区では長年女性会や信徒の集いが持たれ、離れていても皆が顔見知りです。このような場が他の地区では無いことに驚きました。人と人が知っている、話し合いができることは大きなことです。教会の再編成が進む今、今回地区ごとに交流会ができたことは、本当に良かったと感じます。今までのことを変えるのは、様々な思いや考えがあり、大変さがありました。しかし、遠くに見えても関わり、皆で考えて行けば、少しずつ前に進むこともわかりました。女性会も教会も変革の時。祈りつつ、これを自分のこととして皆で考えていけたらと思います。ありがとうございました。

八木 久美（むさしの教会） 一年にわたる会合の中で、私たちは女性会の現状と将来に真摯に向き合ってきました。年齢構成の偏り、活動継続への負担、次世代への信仰継承の停滞は、一朝一夕には解決を見ない課題でもあります。

ただ、聖書に語られる「からし種」のように、語り合いの中で蒔かれた小さな種の芽吹きは、神の御手のうちで静かに水を動かし、風が思いもよらぬ方向へ吹き始めるような確かな変化の兆しとなっています。「次世代への信仰継承」も、一方的な手渡しではなく、多様な世代と共に歩み、対話と実践の中で育まれる「手をつなぐ関係性」として、点から面へと広がっていくことを願います。

「変わることを恐れるのではなく、信仰共同体が生き続けるための恵みのチャンスとして、これからも祈りとともに歩みを重ねていきたいと考えます。どの地にあっても、予定調和を超えて、主の風に導かれる豊かな未来を信じて。

最後に、誠実に関わってくださった検討委員会の皆さまに心より感謝申し上げます。

各地区会報告

甲信地区

飯田教会 神庭靖子

6月28日（土）、地区センターの松本教会にて、2025年度甲信地区女性の集いを開催しました。2年ぶりの開催でしたが、甲信地区5教会中、長野、松本、飯田、甲府の4教会（諏訪は欠席）から合計31名（長野教会はZoom参加）の参加者あり、懐かしい顔ぶれと集うことができました。

甲信地区女性会は、コロナ禍で一時対面で集えない時期がありましたが、Zoomで行うなどの工夫をしつつ、年1回（連盟総大会がある年はなし）の地区集会を持っています。また、東教区女性会役員の皆様にもご参加いただいております、今年も4名が参加してくださいました。また、甲信地区担当牧師の朝比奈晴朗牧師（飯田）

をはじめ、浅野直樹Jr.牧師（諏訪、甲府）秋久潤（松本、長野）も参加してくださいました。

今回の集いでは、「今後の女性会の在り方検討：限界教会の女性信徒は何をどうできるのか～課題を踏まえポジティブな未来を具体的に描こう～」をテーマに交流タイムを持ちました。まず5グループに分かれて自由に意見を出し合った後、全体での分かち合いをしました。活発なご意見が出され、新たな気づきと共に、和気あいあいとしたさわやかな時間を過ごせた気がします。

東教区女性会では「女性会の在り方検討委員会」が立ち上がり、女性会の課題を踏まえて今後の在り方について具体的に考えをまとめてきていますが、甲信地区では、5教会中2教会（長野、甲府）が女性会を休会中であること、5教会中4教会が兼牧体制であることなど、東教区の他地区、他教会を20年近く先取りして、既に深刻な課題を抱えた現状に向き合ってきました。にもかかわらず、変わらずほぼ毎年地区会を開き、地区会報も発行しています。また地区会では、毎回休会教会にもお声掛けして共に集い、会報もお届けするという交流を続けてきています。このアットホームな地区会のよさを再認識した上で、それだけでは解決できないルーテル教会全体が直面している困難な課題を持ちながらも、今後への希望を見出せるよう、神様に祈りつつ歩んでいきたいと思いました。



中央線沿線地区

市ヶ谷教会 川端聡子／むさしの教会 八木久美

8月31日（日）14時より、市ヶ谷教会会議室にて中央沿線地区女性会主催の信徒交流会が開催され、市ヶ谷教会・三鷹教会・むさしの教会・保谷教会から総勢46名が参加しました。

最初にミニゴスペルワークショップ、クワイアディレクターに遠藤絵理さん、奏楽者にむさしの教会の大濱英子さんを迎え、心に響くゴスペルの調べが会場を包みました。1曲目の「Make Us One」では、参加者全員が一つとなって主を賛美することができました。2曲目は「たいせつな人」。「あなたに出会えてよかった～♪」と隣の人と歌い合いながら、自然と親交が深まりました。最後に絵理さんの祈りで締めくくられ、神様が与えてくださった宝物のような時間を過ごすことができました。絵理さんからは「信仰の大先輩の皆さんが力強くゴスペルを歌う姿に深く励まされました」との感想が寄せられ、参加者からも「こういう会、いいですね」「しばらく曲が耳から離れませんでした」といった声が聞かれました。

（川端聡子/市ヶ谷教会）

第二部では「私たちの教会は“今”」をテーマに、中央線沿線を一本のレールに見立て、市ヶ谷・むさしの・三鷹・保谷・羽村・八王子の各教会を順に紹介しました。礼拝後の愛餐会、軽食会、コーヒESHOP、昼食会、お茶飲み会、さくらカフェ（桜祭り時）など——呼び名は違っても、「共に食し語る」温かな交わりを大切にする姿勢は共通していました。

一方、役員のみならず手不足や会の名称変更、牧師の兼任、会員の高齢化などの課題もありますが、チャリティやフェスタ、被災地支援を通じ、助けを必要とする方々に寄り添う働きは続けられています。今後も互いに支え合い、交わりが深まることを願います。

最後に、この地区会を共に支えてくださった皆さま——川端・水戸・佐藤の各会長（市ヶ谷・三鷹・むさしの）、内容をご確認ください浅野Sr.・高村・坂本・筑田の各牧師、田代さん・立石さん・嶋田さん（八王子・むさしの・羽村）、教会代議員としてご協力くださった古川さん（保谷）、そして会場をご提供くださった市ヶ谷教会の皆さまに、地区会一同として心より感謝申し上げます。

（八木久美/むさしの教会）



城北・総武地区

東京教会 松本奈美

総武地区から千葉・市川・稲台・聖パウロ教会が、城北地区から東京池袋・東京教会の6教会女性会（加盟休止は津田沼・小岩・小石川・本郷・板橋教会の5教会）が9月15日（月・祝）東京教会にて集いました（会費700円）。教区役員さんと牧師2名とを含めて32名の出席でした。

10時半に受付開始、11時から開会礼拝をまもらしました。小勝先生によるご体験を交えてのメッセージには、励まされ、心が強められたことです。その後、集会室へ移動して各々好きな場所に着席し、まず、松本教区長から教会行政から見た東教区、全国諸教会の現状について短く説明を聴きました。具体的な数字や実際の例が話され事態の深刻さがよりクリアになりました。これに続いての6女性会からの報告は、窮状や会存続への不安、嘆きがありつつも、しかし、それでは終わらない！？例会を通して親睦を深めている、牧師に頼り過ぎないように気を付けている、壮年会・女性会と別々で動いているが、ゆくゆくは一緒に活動していきたい、例会自体は隔月に1回になってしまっているが手作りのものも含めたフリーマーケットの開催によって国内海外の支援活動をしている、女性会会員外の方々から「お話を聞く」会をして人となりを知り合う、来られない方々にカードをお送りする、等々、やはり人と人とのつながりを大切にしようとする姿が浮かび上がっていました。教会同士もこのように…。

お昼。教区女性会補助金のおかげのリッチなお弁当には誰もがニンマリ。午後は「持寄りレクリエーション大会」！各女性会の持ち時間5分。選んだ理由を伝えて全員で賛美したり、歌の指示によって立ったり座ったりするゲーム、こどもキャンプや春キャンで必ず歌う振付賛美、1:1でのじゃんけんで負けた人が勝った人の後ろについてどんどん長い列ができていくゲームなどはやる人も見る人もけっこう笑いましたネ。

6女性会会長でライングループを作り、各女性会での話し合いを持ち寄ったり係を分担したりしながら出来上がった地区会でした。大きな恵に感謝！



城南・神奈川地区

藤が丘教会 山内陽子

9月27日（土）、初めての試みとして、城南神奈川地区女性会の集いが、藤が丘教会にて開催されました。暑い中、遠くから来てくださった方々に心より感謝いたします。参加者は下記のとおりで、合計22名となりました。

地区女性会は、短い時間ながらも、和やかに各教会の情報交換ができ、楽しく親睦が計れて、他の教会の方々との親しいつながりを持つ良い機会であったと思います。ただ、お話を聞く中で、やはり信徒の少ない教会の抱える問題、女性会の問題、それぞれの苦労も垣間見られ、考えさせられる点がいくつかあり、情報共有の必要性を感じました。

女性会員数の減少化が進んでいるのは、当藤が丘教会も例外ではありませんし、会費の減少の問題もあります。集いでは、和田会長からは、「在り方検討委員会」での経緯についてのお話もありました。（何度も話し合いを重ねてこられた役員の方々には感謝です。）

各教会において、また、東教区女性会および連盟において、多くの課題があるなか、問題解決の提案、審議が進められますように、その中で信徒のより親しい交わりが深められますようにお祈りいたします。



2025年9月27日（土）東教区城南神奈川地区会（藤が丘教会）参加者数
大岡山教会6名、大森教会1名、田園調布教会1名、都南教会2名、湯河原教会1名
東教区役員3名、藤が丘教会8名、合計22名

第25回ルーテルこどもキャンプ報告「恵みあふれる3日間」

「キア オラナ！ クック諸島」～わたしはすばらしいものとしてつくられた～

TNG子ども部門 河田晶子

第25回ルーテルこどもキャンプは8月5～7日、東京教会を会場に、全国より小学5年生～中学生まで15名のキャンパーが集まりました。今年は世界祈祷日に倣って「クック諸島」をテーマ国に選び、世界祈祷日の式文を参考に部門メンバーで知恵を絞りあってプログラムを練り上げました。

このすばらしい恵みの様子を少しご紹介しますね。

1日目：クック諸島ってどんな国？「友達との出会い」

初めてのキャンプ、初めて会う友達、1年ぶりに会う友達、子どもたちは、ちょっぴりドキドキしながら集まってきました。そんな不安もプログラムが進んでいく内にだんだん打ち解けて、夜のクック諸島クイズは大変な盛り上がりで、子どもたちの笑い声が会堂いっぱい響きました。

2日目：クック諸島体験「神さまにつくられた私たち」

午前中は、クック諸島体験オリエンテーリングです。6つのポイントを回ります。①マオリ語のことは②マオリ語の数③歌④リズム⑤ロレ→日本の竹馬で、クック諸島の伝統的な遊びです。⑥祈り→クック諸島にもさまざまな社会問題があることを知り、クック諸島に住む人たちのことを覚えて、大江教会女性会で作って頂いた十字架を手に祈りました。（感謝！）ポイントを回りながら、クック諸島の学びを深めていきます。

午後は、「エイ・カツ」というクック諸島で伝統的に作られ、男女関係なく身に着ける花の冠を作りました。これはとても楽しかったようで、子ども達は夢中になって作っていて、とても素敵なそれぞれに個性あふれる「エイ・カツ」が完成しました。夜にはそれを身に着け、クック諸島の人々にとって「いのちの木」と言われるほど大切なココナツの木がどのように人々の生活を支えているかを学びます。ココナツの木は、葉、殻、幹、根、他、どの部分にも使い道があり、食べ物としてだけでなく、生活用品や薬などなど、とても役立っているのです。神さまはこのココナツの木だけでなく、私たち一人一人もすばらしいものとして作られました。そのあとの礼拝では、神さまがつくられたすべてのものに感謝し、自分を愛し、まわりの人たちをも愛することができるようにと、チャプレンの池谷先生のメッセージを聞きました。



3日目：さよなら、また会おう！「すばらしい私にできること」

いよいよ最後の日。子ども達は一人一人この3日間の感想を発表しました。クック諸島のことを知り、距離は遠くても心はぐっと近くなったこと。クック諸島の伝統や生活のなどの素敵なおとこやクック諸島の問題にも触れることができたこと。神さまについてあらためて考えることができたこと。など、様々な感想がありました。一様に「楽しかった！また参加したい！」と目を輝かせていました。

恒例のさよならパーティではクック諸島の15の島をイメージしてお菓子を飾りました。（お菓子を献品してくださったAさんに感謝！）最後には、「元気でね」の歌に合わせてハイタッチ！

派遣礼拝では「シャローム」の賛美の音が響きわたり、神さまの豊かな恵みを受けて心が熱くなりました。それぞれの場所に帰っても子ども達が神さまと共に歩み続けることができますように。

こどもキャンプは「みんな神様から愛されている子どもだよ」を大きなテーマとしています。恵みあふれるこどもキャンプの様子が少しでも伝われば幸いです。私自身はこどもキャンプに関わって21年になります。嬉しいことに若い世代のメンバーが育っていて、そろそろバトンを渡すことができそうです。どうぞお祈りください。

最後になりましたが、お手伝いくださった東教区女性会の役員さん、東京教会の方々、リーダーやマネジメントで活躍してくれた青年たち、参加してくれたキャンパーと送りだしてくれたご家族や教会、盛り上げてくれたちびっ子たち（スタッフの子）、お祈りご支援をいただいたすべての皆さんに心から感謝します。

主題聖句「あなたに感謝します。私は畏れ多いほどに驚くべきものに造り上げられた。あなたの業は不思議。私の魂はそれをよく知っている。」詩編139編14節



サウスカロライナ・シノッド200周年記念総会訪問

繋がりを感謝し、未来へ

三鷹教会 和田めぐみ



サウスカロライナ教区（シノッド）は、1892年に日本伝道のため宣教師J・AシェーラーとR・Bピーリーを送り出し、翌1893年4月2日のイースターに佐賀で最初の礼拝が行われ、日本のルーテル教会の宣教活動が始まったという深い繋がりのある教区である。その200周年を祝う記念の総会に招かれた。

2025年6月11日、滝田浩之牧師を団長に、河田礼央牧師、秋久潤牧師、笠井春子牧師、池谷孝史牧師、D・ネルソン牧師、そして信徒の私を含めた7名が羽田空港を飛び立ち、ダラス国際空港を経由し、サウスカロライナ州チャールストン空港に到着した。現地では、ルーテル大江教会出身で現在、ELCA（アメリカ福音ルーテル教会）サウスカロライナ・シノッドに属する二つの教会の牧師を務める安川美歩牧師が出迎えてくれた。安川牧師は、海外伝道（ミッションボード）の“タスクホース”メンバーであり、今回の私たちの旅のすべてをアテンドしてくれた。

総会会場は、宿泊ホテルに近いCharleston Area Convention Centerという大きな施設で、廊下の両側には各団体や学校のコーナーが並び、まるで学園祭のような賑わいだった。会場ホールには300名ほどの参加者の丸テーブルが並び、私たちは最前列に案内された。総会に先立ち、サウスカロライナ教区のジーニー教区長が私たちを昼食に招いてくれ、市ヶ谷教会を創設した宣教師のご伴侶であるバーバラ・ヌーディングさんや、トム・カッセン牧師、シェーラーを送り出したセント・ジョーンズ教会の牧師、教区事務局長、ウィリアム牧師（タスクホースメンバー）、安川牧師らが集い、私たちは盛大な歓迎を受けた。ジーニー教区長は存在感のある女性の牧師だった。

総会の中で、私たちは参加者に紹介され、日本への伝道が教区の大きな喜びになっていると感じることができた。私たちからも、滝田牧師の挨拶を通して、大変な苦労を重ねて宣教師を派遣し伝道してくださったことへの感謝を述べた。総会のイベントとして行われた200年の歴史を辿る演劇は、南北戦争によりサウスとノースに分断されたカロライナ州のことや、女性牧師誕生までの困難などがあったものの、それでもなお聖霊の導きによって進むことができた感謝と未来への希望を伝えるものだった。

総会后、私たちは歴史あるセント・ジョーンズ教会を訪問し、日本伝道のミュージアムを見学させていただき、そこで、日本との交流の深さを改めて知ることができた。続いて、聖ルカ福音ルーテル教会を訪問し、美しいステンドグラスや配信装置が整った部屋などを見学した。その後、同教会の信徒の方のホームパーティーに招かれ、教会の女性会の方から手厚い歓迎を受けた。そこで教区長に日本の女性会の現状を伝えると、「女性会ができること、それは次世代を育てるために力を注ぐことだ」という力強い答えが返ってきて、この言葉に私は大いに励まされた。また、安川牧師の紹介で、聖ルカ教会の女性会メンバーであるジョイさんと出会った。彼女は日本に来ていた宣教師の娘で日本生まれだという。日本が大好きで、日本の女性会と一緒に何かをしたいと熱い思いを伝えてくれた。この訪問は、繋がりの喜びが未来への希望になっていく、そんな貴重な体験となった。



「ほしくずの会」ボランティア報告 ほしくずの会を訪問して

8月19日（火）に「ほしくずの会」の作業所を訪問しました。毎年12月の「ほしのいえ講演とミニライブ」にはトーンチャイム演奏で参加していましたが、実際の作業所訪問は実現しないまま月日がたっていました。長年の懸案事項であった訪問がやっとかなえられ、26期東教区女性会会長の和田めぐみさんと一緒に訪問しました。

この活動はカトリックのシスター中村訓子さんを中心に教派を問わずボランティアが参加しています。ルーテルは第三火曜日に活動の責任を負っており、ほしくずの会会長の安藤淑子さん（蒲田教会）と活動委員会会長の浅野聖子さん（市ヶ谷教会）にご案内をしていただきました。

11時からお米の計量、洗米、炊飯器のセットが始まり、合計16リットルのお米がセットされました。炊き上がるまでの間に、シスター手作りの煮物やサラダなどを囲み、持参した昼食をいただきました。

この日はカトリック教会の方、頌栄学園高校の女学生、以前支援を受けていた側の方等、多くのボランティアがいらっしゃいました。午後1時からおにぎり作りが始まり、計量、のり用意、ラップ包みの流れ作業で行われました。新人の和田さんと私は、ご飯をお椀によそい、はかりで計量する役割を任されました。約1時間半の作業で、段々慣れてくると手加減ではかりの針がピタッと合うようになりました。この日できたおにぎりは200個でした。

昼間の作業は午後3時頃に片付けを始めました。この後、夕方からは他のボランティアがお味噌汁作り、配達、配食を行い、午後8時には終了するとのことでした。

たった一日の体験でしたが、「ほしのいえ」と「ほしくずの会」の活動が、どれほど多くの方々のお支えによって続けてこられたかという事に思いを馳せて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

（東教区女性会会計担当役員 小林エイ子）



お知らせ

いつくしみ講演会のお知らせ

柴田愛子先生講演会

「みんなで子育てを楽しもう」

～子どもが健やかに育つには～

〈日 時〉 2026年2月28日（土）

13:00～15:00

〈場 所〉 日本福音ルーテル大岡山教会

26期東教区女性会

第5回「春の会長会&信徒の集い」

〈日 時〉 2026年4月11日（土）

〈場 所〉 むさしの教会

第27回 女性会連盟 総・大会

〈日 時〉 2027年6月3日（木）～4日（金）

〈場 所〉 総会：日本福音ルーテル大阪教会
大会：ホテル プリムローズ大阪

NCC世界祈禱日2026

〈日 時〉

2026年3月6日（金）

〈テーマ国〉 ナイジェリア

〈テーマ〉

「わたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう。」

"I Will Give You Rest : Come"

～ナイジェリアからのメッセージ～



…………… 編集後記 ……………

在り方検討委員会の提案を受け、地区会が開催されました。各地区の楽しい交流の様子から、集うこと、交流することから生まれる活力・活性化を改めて知らされました。閉塞した現状に新しい展開の望みが現れ「希望、平和、多様性」への歩みが見えてきたように思われます。検討委員会のみなさまの1年に及ぶ協議に心より感謝いたします。

東教区女性会会報 第106号 2025年12月15日
発行人：日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会
発行者：和田めぐみ 編集人：石原真由美